

算数科学習指導略案

2年1組 29名 指導者 沢村優治

本授業では、以下の検証を行うものである。
 前時まで習得した基礎的基本的な知識・技能を学び直しながら、活用させるための板書や発問は、子どもたちに効果的であったか。

1 題 材 ひき算のひっ算

2 指導計画 (総時数13時間) 動:動かす活動 調:調べる活動 か:かく活動 伝:伝える活動

小題材	育てたい力 思判表	主な学習活動	評価規準の 重点観点	算数的活動の類型化及び活動例		
				動:調:か:伝	算数的活動	
二けたのひき算④	○:○:○	1 繰り下がりのない2位数同士の減法について考え、その筆算形式について考える。	(知)	○	○	ブロックなどを使った操作活動
	○:○:○	2 繰り下がりのある(2位数)-(2位数)の減法の筆算の仕方を考える。(本時)	(考)	○	○	ブロック等を用いた操作活動
	○:○:○	3 繰り下がりのある2位数同士の減法の筆算について練習し、(何十)-(2位数)や差が1位数になる筆算の仕方を考える。	(考)	○	○	既習事項を活用して問題を解決する活動
	○:○:○	4 繰り下がりのある(2位数)-(1位数)の筆算の仕方を考える。また、既習事項の理解を深める。	(技)	○	○	既習事項を活用して問題を解決する活動
百より大きい数からひくひき算③	○:○:○	5 (何百十何)-(2位数)で答が百の位に繰り下がる減法の筆算の仕方について考える。	(考)	○	○	ブロック等を用いた操作活動
	○:○:○	6 (何百十何)-(2位数)で、2回繰り下がる減法について、その仕方について考える。	(考)	○	○	ブロック等を用いた操作活動
	○:○:○	7 (何百)-(1, 2位数)で被減数の十の位が空位のときの筆算の仕方を考える。	(考)	○	○	ブロック等を用いた操作活動
三けたのひき算②	○:○:○	8 (何百)-(何百)の計算の仕方や(千)-(何百)の計算の仕方を考える。	(知)	○	○	お金模型等を使った操作活動
	○:○:○	9 (3位数)-(1, 2位数)の計算の仕方を考える。	(技)	○	○	既習事項を活用して問題を解決する活動
たし算とひき算の関係①	○:○:○	10 テープ図や言葉の式をもとに、被減数・減数・答えの関係を調べ、加減の関係を考える。	(考)	○	○	操作活動、図や絵に表す活動
ぜんぜん空欄⑤	○:○:○	11 テープ図をもとに「部分+部分=全体」等の関係を捉えて立式し、答えを求める。	(技)	○	○	操作活動、図や絵に表す活動
だめしの練習力	○:○:○	12 学習のまとめ、練習問題をやる。	(技)	○	○	練習問題
	○:○:○	13 既習事項の確かめをする。	(技)	○	○	練習問題

3 本 時 (2 / 13)

(1) 目 標

繰り下がりのある(2位数)-(2位数)の筆算の仕方を理解できるようにする。

(2) 評価規準

ブロック操作をしながら、繰り下げて計算する方法を順序よく説明している。 【数学的な考え方】

(3) 指導に当たって

「つかむ」過程では、分かっていることや尋ねていることを確認することで問題場面を把握できるようにし、実際に切手の絵をかかせることで「使う」ということがどのようなことを表しているのかを実感させるようにする。

「見通す」過程では、前時や既習事項を想起させ、同じような状況の場面はなかったかということに目を向けさせることで、学習してきたやり方でできないかを考えさせる。

「見つける」過程では、絵や図を用いて解決している子どもや10のまとまりに視点を置いている子どもを称賛しながら個別指導を行う。また絵や図を用いて考えている子どもに、その考えが筆算に活かさないかどうかを声掛けする。

「磨き合う」過程では、絵や図と式や筆算を対応させて説明させることで、10のまとまりを意識させることができたり、既習事項である繰り下がりのある(2位数)-(1位数)の考えが活かせることが分かったりすることを理解させる。

「振り返る」過程では、学習したことを定着させるために問題に取り組ませる。また次時への意欲付けを図るようにする。

時	過程	主な学習活動と教師の手立て・評価	
10 (分)	つかむ	<p>1 学習課題を受け止める。</p> <p>きってが45まいありました。27まいつかいました。 のこりはなんまいでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 分かれていることや尋ねていることは何かな。 様子を絵に表してみよう。 この問題の計算は何かな。 筆算で計算できそうぞ。 今までのひき算の筆算と違うところはどこかな。 	<p>分かれていることや尋ねていることを確認することで問題の様子をつかませる。</p> <p>実際に切手の絵をかかせて「使う」ことはどういうことを表しているのかを実感させる。</p> 
		<p>2 学習問題をつかむ。</p> <p>一の位をひくことができないひっさんはどうしたらよいだろう。</p>	<p>十の位はひけるが一の位がひけないことに気付かせ、学習問題の焦点化を図る。</p>
30 (分)	見通す	<p>3 解決の見通しを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 前の時間はブロックを使ってひき算の筆算を説明したから、ブロックを使えば分かるよ。 絵をかけば分かりやすいよ。 十の位からかりてくればいいよ。 	<p>見通しを行う際に、前時や既習事項を想起させ、同じような状況の場面はないかということに目を向けさせる。</p>
	見つける	<p>4 自力解決を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> 十の位から一つかりてきて15にしたら15-7で計算できるよ。 かりてきたら、十の位が減って4が3になるよ。 十の位からかりてくれば、十の位も一の位もひけるね。 ブロックでしたことを筆算に使えないかな。 順序よく説明したら答えが出せそうぞ。 友達に筆算の仕方を説明してみたいな。 	<p>絵や図を用いて解決している子どもや10のまとまりに視点を置いている子どもを称賛しながら個別指導を行う。</p> <p>自力解決をしているときに、これまで学んだことを活用していることに対して称賛を行いながら個別指導を行う。</p>
	磨き合う	<p>5 自分の考えや思いを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんなが分かるようにブロックを使って説明するぞ。 付け加えたいな。 Aくんの説明は分かりやすいな。 Aくんの考えは僕のと同じだ。 <p>一の位がひけないひっさんは、十の位から10をかりてくれば、十の位も一の位もひき算できる。</p>	<p>※ ブロック操作をしながら、繰り返し計算する方法を順序よく説明している。(発表, 説明, ノート)</p> <ul style="list-style-type: none"> 解決できている子どもには、ブロックの操作と筆算とがつながるような説明の仕方を考えるように声掛けをする。 解決できていない子どもには、10のまとまりを想起できるようにブロックや絵を使って考えさせる。
5 (分)	振り返る	<p>6 練習問題をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今日見付けた筆算の仕方での問題をやってみよう。 繰り返し下がりがあったりなくてもひき算の筆算ができそうぞ。 ひき算の筆算の仕方を説明できるようになった。 	<p>絵や図と式や筆算を対応させて説明することで、よりよく相手に伝えられることを理解させる。</p> 
		<p>7 本時の学習を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達の説明をしっかり聞くことができていたよ。 筆算の仕方を順序よく説明できたぞ。 次は発表することを頑張ろうね。 	<p>定着を図ることができるように、練習問題を行う。また、学習したことを振り返らせるために、本時で学んだことを活用するように助言していく。</p>